

インタビュー調査からみる 中国人留学生在母国の学校教育で学んだ文章の書き方について —作文参考書の利用を中心として—

大野早苗・莊巖

要旨

中国人留学生 6 名を対象として、彼らが母国における国語（語文）教育を通してどのような書き方を学んできたかを知るためにインタビュー調査を行った。その結果、彼らは、ジャンルやテーマによって望ましい文章展開の方法があり、それに則して書かれた作文がよい作文である、表現の美しさや修辭的な技巧は重要である、古典的な名句や偉人の言葉などの引用が書き手の教養を示し、作文の評価を高めると考えていること、また、適切な文章展開や表現、引用のための語句を覚えるために市販の作文参考書類をしばしば用いていることがわかった。さらに、日中の文章の書き方には違いがあると感じており、日本でよいとされる書き方に必ずしも納得していないことも示唆された。

キーワード

中国人留学生、語文教育、書き方、作文参考書、日中の差異

1. はじめに

古くは Kaplan (1966) が指摘したように、文章の書き方には書き手の母語と背景にある文化による違いがある。文化による書き方の違いについての研究は、学習者の作文指導だけでなく、専門分野の指導、さらに異なる文化的背景を持つ者同士の協働的な学習の推進のためにも有用な情報となる。渡邊 (2007、p. 573) が指摘するように、書くことの修得は「所与の社会共同体の成員となるために、それぞれの文化の思考プロセスや表現スタイル」を学ぶことであり、書き方の違いは思考や主張の方法の違いに通じるからである。

日本語教育の分野では、佐々木 (2001)、二通 (2001) をはじめとして、演繹型か帰納型か、問題提起・意見・実証などの構成要素がどう配列されるかなどを観点に、日本語学習者が日本語で書いた文章の分析がなされてきた。しかし、日本語学習者の書き方の特徴、ひいては思考プロセスや表現スタイルの特徴を包括的に捉えるためには、日本語教育の場で日本語で書かれた文章だけを研究対象とするのでは不十分であると思われる。

例えば、次に引用するのは、日中交流研究所所長の段躍中氏が「日本人の中国語作文コンクール」と「中国人の日本語作文コンクール」を比べて述べた感想であるが、ここに書かれているような、考える視点などといった問題は従来、評論的な文章やエッセイなどで指摘されることはあっても、研究の対象として取り上げ、量的あるいは質的に調査するということはなされてこなかったようである。

日本人のテーマは、旅行や留学など身近な体験から日中友好を考えるものが多かった。一方、中国人のテーマは、中日交流のために政府の役人にも勝る、大きなテーマを戦略的に考えるものが目立った。よく言えば高い視点から、悪く言えば大言壮語的

ともいえよう。

(<http://www.peoplechina.com.cn/maindoc/html/200710/32zhuanwen32.html>、2016年2月4日参照)

物事を見る視点や考え方は短期間で身につくものではなく、時間をかけて、特に若いうちは学校教育から大きな影響を受けつつ、形成されるものである。したがって、学習者の書き方の特徴を知るためには、母国での教育や学習方法も視野に入れた研究が必要である。

母国における学習方法について言えば、中国では市販の優秀作文集をはじめとする作文参考書類が広く用いられており、中国人学習者の作文にはその模倣による影響があるという声を聞くことがある。例えば、次に引用するのは公益財団法人国際文化フォーラム発行の日本語教育のための情報誌「ひだまり」に掲載された杏林大学助教授（当時）本田弘之氏の文章であるが、ここでは中国の高校生が優秀作文集をまねて似たような作文を書くことが指摘されている。

中国の高校生の書く作文を読んでいると、生徒同士が相談しながら作文を書いたのではないかと思うほど、内容も表現もよく似た作文がたくさんあることに気がつきます。(略) 中国の書店には「優秀作文集」がたくさん売られていて、みんなその作文の表現をまねて文を書きます。中国の作文指導では、表現の巧みさが評価の対象となるからです。

(http://www.tjf.or.jp/hidamari/3_migakou/manabikata12.html、2016年2月6日参照)

優秀作文集をまねるのは、まねることに何らかの意味があるからだろう。個人個人が自分の内面や考えを書くことがよいとされることの多い日本では⁽¹⁾、皆がよく似たものを書くことは批判的に見られがちである。批判的に見るだけでなく、なぜまねるのかを調査、研究することも重要ではないだろうか。

筆者らは、以上のような問題意識から、中国人留学生を対象として、彼らが母国の教育、とりわけ中等教育期の国語教育（中国においては、語文教育）の中で書くことをどのように学んできたかについて、優秀作文集などの作文参考書類の利用方法も含めて、学習者の認識を知るべくインタビューを重ねてきた。本稿は、将来の量的、質的な調査を視野に入れて、インタビューで語られたことを整理し、報告するものである。

2. インタビューの概要

本稿で紹介するインタビューの協力者は6名（A～F）である。6名の所属、インタビュー時期などを表1に示す。表1にもあるように、インタビューは本稿の筆者である大野と荘の2名で分担して行った。荘によるインタビューは中国語で行われたが、本稿ではその内容を日本語訳で示す。インタビューは、協力者の許可を得て録音し、その後、文字化した。

インタビューは、以下の質問項目に基づき、半構造化面接法で行われた。

- ① 文章をうまく書くのは大事なことだと思うか。
- ② よい作文とはどのようなものか。
- ③ 作文参考書の類をどのように利用したか。

④ 日中の作文に違いがあると感じるか。

インタビューの実施にあたって、協力者には、調査は中国で受けた教育から学んできたものを知るためのものであること、したがって、中国での中学、高校時代にどうやって作文を書いていたかについて、よく思い出しながら話してほしいことを伝えた。なお、インタビュー協力者のうち、Bは1度目のインタビューが終わって数ヶ月たってから、中国で使っていた参考書類について思い出したことがあると申し出てきたため、改めて日時を設定し、情報補完のための2度目のインタビューを行った。

表1 インタビュー協力者およびインタビュー実施時期など

	性別	所属(インタビュー時)	インタビュー実施時期	インタビュアー	使用言語
A	女性	大学院博士課程後期	2014年1月	大野	日本語
B	女性	大学院博士課程後期	2014年1月・2015年3月	大野	日本語
C	女性	学部卒業後、就職活動中	2014年2月	大野	日本語
D	女性	学部1年	2015年5月	大野	日本語
E	男性	学部1年	2015年7月	莊	中国語
F	女性	学部2年	2015年7月	莊	中国語

3. インタビューの結果

本節では、上記の質問項目を中心に、インタビューの結果を報告する。以下、報告すべき内容をまとめ、次いで、具体的な発言を例示する。発言に文脈上、補足が必要な場合は、()内に記す。

3.1 文章をうまく書くのは大事なことだと思うか

6名の調査協力者に共通するのは、うまく書けるようになることが非常に重要だと思っているという点である。重要だと思う理由として、皆、まず、語文の試験の中にいつも作文があり、よい点を取る必要があるから、仕事をするとき役立つからといった実際的なことを挙げた。特に、試験に作文があることは、作文能力が重要だと考える大きな理由となるようで、6名のうち5名から試験のための勉強や成績評価に関する発言があった。

A: テストのときに、必ず作文があります。とても配点が大きい。(作文が重要なのは) それでいい点を取るため。(テストのときに作文があるのは) それは、大学入試に必ず国語があって、その中に作文も含まれているから。

F: 文章を上手に書けることは、今であれば、面接のときにきっと役立つでしょう。それから、会社の中にも、上司から何か書けと言われていたりすることがある。会議の記録のまとめや、あるいは何かの計画書とか、きっと役立ちます。これは大事だと思います。

さらに、1名からは、自分を表現し、他者に理解されることそのものの重要性を強調した発言が聞かれた。

E: 文章を書く意義ですか、(略) 自分が書いているとき気持ちがよいからです。

(略) そう。感情を言葉に表し、自分の心の思いを知ってもらい、自分の観点、自分のその、観点と、様々なことに対する自分の感情を他人に知ってもらおう。自分を理解してもらおう。一番大きいのは自分を他人に理解してもらい、よく知ってもらおうことです。(略) 生活においては言葉は芸術です。多くのことを理解できれば、あ、例えば、会社において、言葉が豊かであれば、人に覚えてもらえ、自分のすばらしさを覚えてもらえる。

よい作文を書くことと皆の模範となるという意識も共通しているようで、6名のうち5名が評価の高い作文がクラスで読みあげられることに言及した。このうち1名は、自分の作文が皆に読まれたことを非常に感動的な思い出として話した。

B: いい作文は、先生がクラスで読みます。

C: よく書けた作文があって、それを先生が選んで、その人が立って読む。

E: (高校生のとき、離れて暮らす母親のことを懐かしむ気持ちを書いた作文がクラスで読まれ、級友が感動して泣いたという経験がある) この小さな文章には欠点も多かったが、書き終わって、クラスのほとんど全部の友達が泣いた。(略) とても気持ちよかった。わかりますか。書いて、それが読まれて、自分の感情、読まれて、私がいかに懐かしんでいるかを伝えたそのとき、感情が解放されたような気持ちでした。

3.2 よい作文とはどのようなものか

どのような作文がよいものとして評価を受けるかについては、文章構成と表現の2つの観点が挙げられた。文章構成については、作文のジャンルやテーマによって決まっているのだという意識があるようである。

A: 作文のテーマによって入れるべき要素があって、それがそろっているかを見られます。そしたら、最低限の点がついて、そこから加点されます。

D: 中学生はまだ記述文で、そこまで自然にある日、何があって、あったことから何が勉強したか、習ったことは何か。有意義の一日だなあとか、最後に、という終わり方。(略) 高校生になったら論述が多くて、それは自分のアイディアが、オピニオンを出して、論拠を出して、後は自分のオピニオンをもう一回強調する。基本はこういう流れです。(略) 流れは決まっています。先生も普通の語文の授業で言ってます。

表現については、表現技巧や美しい言葉遣いを重視する様子がうかがえた。

D: 言語の面では、美辞麗句がなければならない。

F: 構造は龍で、何だっけ、あのう、鳳凰の頭、蛇の尻尾という構造で、言葉がきれいであること、書き出しがきれいで結びも上手にすることです。(インタビューに、蛇でなく豹の尻尾だと指摘されて) あ、豹、豹の尻尾です。その通りです。ふふふ (笑う)。それから優美な語彙があること、優美な語彙、語彙が重要です。

3.3 作文参考書の類をどのように利用したか

6名の話によると、作文のための参考書には、代表的なタイプとして、1節で触れた優秀作文集に加え、素材集の類、引用辞典の類があるという。本節では、参考書の所有状

況、タイプ別の参考書の利用についてまとめる。

3.3.1 参考書の所有状況

インタビュー協力者の6名全員が参考書類を所有していた。また、級友も皆、持っていたということであり、広く普及していることがわかる。

E: そうそう、こういうのはみんな持っている。

F: (同級生は皆) 持っている。買っている。(略) 最低でも家に三冊くらいはある。

3.3.2 優秀作文集の利用

優秀作文集というのは、文字どおり優秀な作文、評価の高い作文を集めて1冊の本にしたもので、実際に生徒が書いた作文を集める場合と、編者が模範的な作文を作成して収める場合があるようである。よい作文例を掲載し、どこが評価されるポイントなのかを解説する機会が多いという。優秀作文集を用いる目的を尋ねたところ、主に受験のため、試験対策のためであるという答えが返ってきた。

D: (優秀作文集に書いてあるのは) こんな作文が良いですよ、先生はこう評価してるよ、という標準を。評価の仕方。(略) これは、もう試験(対策用)。

E: 模範作文集(優秀作文集)はね、受験用でしょう。適当にその場しのぎの文章を書くために買ったのです。

では、試験対策用として優秀作文集をどのように利用したのかというと、3.2 でまとめた、よい作文についてのとらえ方に呼応するように、構造と表現技巧の模倣であるという答えが返ってきた。これは、1節で引用した本田氏の文章で述べられているとおりである。試験でよい結果が得られるような望ましい文章構造、表現が優秀作文集に示されており、模倣によりそれらを学ぶというわけである。

A: 文の種類によって書かなければいけない要素があるじゃないですか。例えば、意見と理由とか、事実とそれについての考えとか。それをまねします。

B: うん、あの、すごい、私的に、あの、印象的なのは、この人を書くとき、悪いことから書きはじめて、その中から、いいところを見つけ出す、というのが、いい論文になるって話ですね。(略) いつもやってたのは、お父さんがいつもすごい忙しくて、私のこと全然見てくれなくて、みたいな感じで、ある日、町に見えたら、仕事とかすごい頑張ってるし、私たちのために我慢もしてるし、とか、そう、最後に、だからお父さんありがとう、って。ははは(笑う)。

B: 静かな、というとき、森の中の湖のように静かな、とかいうのがあったら、これいいね、と、覚えておく。

D: 今、振りかえると、言葉の使い方。ものを描写するときは、なんかちょっとマネしたりすることもあると。(略) 例えば、人の目を描写するときは、この目が大きい、黒と白だなんていうだけじゃなくて、大きいな、何々のような、何々のような明るい…(略) ああ、この目は、うん、まあ、何かのように大きくきれい、とか、そういう感じ。

教科書などを用いて学校で習う以外に、市販の優秀作文集から構成や表現を学ぶことについては、教員の側も認めていたようである。

F: 先生はこうも言いました。もし、言葉が出てこないときには、参考にしてもよいが、丸写しはだめ。構成や、言葉をどのように修飾しているのかについては、(略) 参考にしてよい。でも、丸写ししないでね、と。えっと、こんな感じですよ。

3.3.3 素材集の利用

素材集というのは、よい作文を書くために役立つような材料、題材を集め、それぞれの扱い方、生かし方を解いたり示したりする参考書のことである。例えば、日常の出来事から社会全体や人生をどう見るかが解説されていたりする。優秀作文集が作文を書く際に直接的に参考として使われるのに対して、素材集は物事を見る視点や考えるための切り口を学ぶために読まれるようである。1 節で日中の学生の作文の視点の違いについて触れた段氏の文章を引用したが、中国人学生の物事の見方、考え方の形成に、素材集も関わっているのではないかとと思われる。

D: 普通に読みます。この本を、いろんなところから、切り口とか、こういう、えーっと、浅い論文じゃなくて、ちょっと深い論文を目指す。(略) 表面のことじゃなくて、もうちょっと裏が何があるのか、裏がこういう原因があるのかとか、考える。(略) 見方。切り口を、この本は解説してます。(優秀作文集とは) 違います。そこまで試験対応してない。(略) これは、素材をどうやって解析するのか、素材を解析してどこに使えるのか考えると、どんな作文でどんな素材使うのか。

E: 普段暇な時には素材集、素材を取り出す。好きな時にこの本を読む。

E: (素材集を読む理由について) 人間の知識はそんなに完璧ではないからです。

3.3.4 引用辞典の利用

古典や著名人の言葉を引用することは、非常に重要なことだととらえられており、引用に使えるような言葉を集めた種々の引用辞典を皆が用いているという。引用辞典には、中国の古典を収めたものに加え、日本を含む外国文学の名作の中の有名な文言を集めたものが出版されており、読んだことがない外国の文学作品の中の文言を引用に使うこともあるという発言も聞かれた。なぜ引用をするのかという問いに対しては、引用をすると作文の得点が高い、自分に教養があるように見せることができる、引用文の権威によって作文の説得力を与えることができるという答えが帰ってきた。

D: (李白や杜甫を引用したら) 教養ありそうな感じ。(略) 技術として、詩とか古典とか引用する。(略) 古典はいいです。現代の作より、いっぱい本を読んでもってという強調するんです。古典、現代の作家でもいいし、国外の外国の哲学者とか作家の、こういうのもいいし。日本の文学も。夏目漱石とか。(略) 川端。太宰治。

D: いい作文になります。この子、いっぱい本読んでるねっていうイメージになりますので、いい作文。

F: (引用するのは) もっと説得力があるからですよ。読む人に、あ、これはだれだれがこのような言葉をいったね、と思わせるのです。(略) 権威、権威性です。

もっと説得力が増します。

さらに、社会に広くその意味や発言者が知られた言葉を引用することによって、少ない字数で多くを語ることができるのがメリットであるとの発言もあった。

E: 中国の作文を書くとき、古文、詩や辞などを学んでおいた方がよい。それは最も良いやり方です。(略) たとえば一つの文の中に、(論語の)「三人行必有我師焉」と入れる。これを現代文に訳すと言葉が多くなる。多くなる。しかし、この文を書くと、(皆が意味を知っているのに、それを書かなくて済むから) 字数が少なく収まる。(略) 重要なのは古文をたくさん学べば、作文も自然に強くなる。私は(そう)感じる。文才があるように見える、自分が。

3.4 日中の作文に違いがあると感じるか

最後に、中国で培ってきた書き方と日本における日本語での書き方の違いをどのように感じているかについて聞いた内容をまとめたい。

まず、内容について感じることにして、中国で書いた作文は国全体などといった大きな話題になりがちであったが日本ではそうではないということ、また、中国では抽象的なことを書くが日本では具体的なことを書くということが挙げられた。

B: あと、今から考えるとですけど、中国の文章は、話が大きいですね。すぐ、わが国では、とか、人間は、とか書いてある。(略) よくわからないけど、日本では違うような気がします。

E: 中国の教育、つまり、作文を書くとき、中学や高校、小学校も含めて、抽象的なものが多い。(日本では) そう、かなり具体的です。

また、中国では盛んに行っていた古典や名文からの引用が日本ではなされないように思うとの感想を述べた者もいた。

D: (引用について) でも、日本語でこういう書き方はしない、という感じがすごくするんです。

日中間に差異があると感じるだけでなく、日本での自分の作文の評価に納得できていない場合もあるようである。自分ではうまく書けたと思う作文が、日本では評価されなかった体験を 2 名が話したが、両者とも評価が得られなかったことに納得している様子ではなかった。

E: 今週、孔子という、あ、老子、老子という作文を書いた。老子を紹介する以上、当然、彼の最も有名な言葉を紹介するでしょ。でも、日本ではね、(その言葉を書くことを) 先生はだめだとしている。関係ないものみたい。これで私はわからなくなり、この作文を書けなくなってしまった。中国で多く書けば書くほどよいとされるのに。(略) 日本人はたぶん、その人物に照準的に、つまり、その人物に照準を合わせて、彼はどんな性格か、何が有名か、どのように有名か、でしょう。(略) 言おうとしたのは、彼の言葉自体、例えば老子の「上善若水」という言葉、「上善若水」という言葉はほとんど世界中の人が知っている。(略) とても有名な言葉です。この言葉にいかにかユーモアがあるかを私が書いた。

(略) 日本の先生はこれは書くべきでないとしている。(略) 私はこれを受け入れるのは、ちょっと、ちょっと、違う。

F: また、えっと、我々中国人が書いた日本語の作文はね、自分の考えに基づいて書いた場合、日本の先生が読むと、何となく違和感があるみたい。そうみたいで。 (先生はどこに違和感を覚えていると思うか問われて) えっと、表現、たぶん、意味の表現、遠回りかなんかしているみたい。(略) 考え方の問題です。ええ、考え方が違う。(略) たとえば、「中国の文化」を書くとか、私が中国の文化を書くのであれば、あのう、大きい面からちょっと書いて、それから例を挙げ、それを加えて比較をします。つまり、中国的なスタイルで書きます。でも、日本の先生はね、あのう、もう少し簡潔に、というのでしょうか。なんか、中心が明瞭でないと感じるようです。あのような…まず、概括して、まず大きい…総括して、概括して、それから具体的に述べて、そう、叙述して、それからもう一回まとめて…自分ではとてもよく書けたと思いますが。

納得がいけない場合はどうするのかというと、納得できなくても、よい成績を取るために日本の書き方に合わせて書く、任務のようにただ合わせて書くといった声も聞かれた。

C: (指示に従ったのは) そう。それは、そうしないと、これは絶対合格点もらえないじゃないかなと思って。(大学の成績の) S、A、B って、あの頃はすごく気になってたんです。(略) 奨学金もらうためにも。それがすごい重要で、必ずこれ、S もらわないととか、A もらわないと、とか思って、自分なりになるべく合わせるように書きました。無理矢理に合わせるようにしましたけど。

F: でも、みんなはね、みんなこんな状態で、誰も気にしません。任務として完成させるように、書いては提出して、書いては提出して、こんな具合です。

4. おわりに

6名のインタビューから、中国では作文教育が重視され、生徒は高評価を得るために参考書の類を大いに活用して、物事の見方を学び、よい文章展開で美しい表現を用いて書こうと努力すること、古典などの引用が教養を示す意味で重要だと考える傾向があることが示された。さらに、留学生が、こうして身につけた書き方、すなわち考え方や表現の仕方が、日本のものとは異なっており、必ずしも日本では評価されないと感じている場合があることもわかった。冒頭で述べたように、書き方の違いは思考や主張の方法の違いに通じる。母国での作文のあり方についての調査、研究は、留学生が考え、議論することを支援する際に、また、専門性を高めてアカデミックな文章を書くことを支援する際に、有用な情報となると思われる。本稿で報告した内容を、中国における語文教育および日本語教育関係者に対する調査や文献調査により、さらに詳細に検討していくことを今後の課題としたい。

付記

本稿は、2015年度第7回日本語教育学会研究集会における口頭発表の内容を再検討して修正を加えたものである。

(大野早苗 おおのさなえ・順天堂大学)

(莊嚴じゅあんいえん・秀明大学)

注

1. 日本の学校教育では、作文教育として感想文や意見文が取り入れられることが多いが、感想文では個々の生徒が体験した内面の変化を書くことが求められ（門島 2013）、意見文では自分なりの意見を書くことが重要だと考えられている（島田 2012）。

参考文献

- 門島伸佳（2013）「自己の成長を実感させる読書感想文の書き方指導」『学校図書館』752, 82-84.
- 佐々木泰子（2001）「課題に基づく意見の述べ方—日本人大学生の場合・日本語学習者の場合」『日本語教育のためのアジア諸言語の対訳作文データの収集とコーパスの構築』平成 11・12 年度科学研究費補助金研究基盤研究（B）（2）研究成果報告書（研究代表者：宇佐美洋），219-230.
- 島田康行（2012）「大学入試「小論文」の 10 年—出題傾向の変遷に関する考察」『大学入試ジャーナル』22, 215-220.
- 二通信子（2001）「アカデミック・ライティング教育の課題—日本人学生及び日本語学習者の意見文の文章構造の分析から」『北海学園大学学園論集』110, 61-77.
- 渡邊雅子（2007）「日・米・仏の国語教育を読み解く—「読み書き」の歴史社会的考察」『日本研究』35, 573-619.
- KAPLAN, R. B. (1966) Cultural Thought Patterns in Intercultural Education, *Language Learning* 16, 1-20.